

古民家再生のジャンルで名著と思われる本がある。平成7年末に住まいの図書館出版局から刊行された「古民家再生術」がそれ。岡山県内で活動されている古民家再生工房というグループの6名がそれぞれの仕事について書き分けている。倉敷には町並み保存地区があるので、そうしたクオリティも背景になっている。その頃の愛媛県内にはまだポピュラーな事例が少なかつたので、新鮮な気分で購入を聞いた印象がある。



古民家再生術

丁度そんな折り、偶然とは不思議なもので筆者は会社勤めを辞めフリーになる事となった。昭和の終わり頃から町並みの保全に関心を高めていた事もあり、試しにウチで古民家再生をやってみようと思いつく。スクラップ&ビルドが当たり前の周辺の町並みを見るにつけ、それまでの建物が何故継承されないのか、何故壊したがるのか、そうした事へのアンチテーゼもあった。と言っても大きなことは出来ないの、車庫に使用するための納屋の改造である。

この建物の築年ははっきりしないが、元々道路向かいにあつて昭和初期くらいに屋敷側に寄せ門長屋のような扱いにしたものらしい。



案山子庵外観(修築後22年)



修築前の入口の状況

い。一説には「駄屋」だったという話もあり、建築物としては至って素朴極まりない。因みに駄屋は、南予辺りで言われる家畜小屋の事で、牛小屋の事が多い。何れにしても、当初の写真を見て分かる通り、最初は正面右側の蔵と接していたが、その部分の雨仕舞いが悪く木部が腐食していた為思い切つて撤去することに。完成後の写真と比べると、通路が開いているのが分かる。そんな次第で、入口頭上にあつた切妻の洋風棟飾りは、その擬洋風な感じが気に入っていたのだが、取り除けて保存することに。

この納屋の入口に取つて付けたような、風変わりな装飾にはチョッと訳がある。実はこの直ぐ近くに、かつて穂積銀行という建物が建つていた。明治30年に発足し、盛時には三間、宇和島の2支店を所有、昭和9年に宇和卯之町銀行に吸収された後、豫洲銀行と変遷し現在の伊予銀行につながっている。その銀行だった建物が昭和30年に取り壊された。



改修前の棟飾り

しになる際、何故かこの部分だけ譲り受けたとのこと。左手に隣接する隣家の倉も、その穂積銀行の蔵を移築したものである。

さて、乗用車と軽トラの駐車スペースを確保して、後は簡単なキッチンとトイレ。納屋の時には物置として使っていた屋根裏空間、ここを部屋に仕立ててコミュニティスペースとして活用したいと考えた。元ははしごで上がる屋根裏だったので、階段を設けないといけない。

こうした水廻りと階段が出来れば、あとは屋根裏をどう楽しく仕上げるか。頭を打つくらいの高さしかない空間なので、照明は埋め込み、壁も漆喰に藁を混ぜて塗ってもらいラフな仕上げにした。

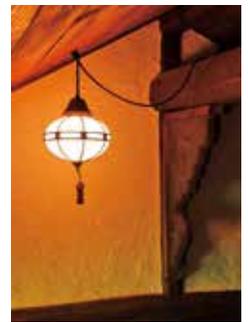


内観

この他、これまでに縁があつて頂いたものや保管しておいたものをこの再生工事で使用したので、それらについてご紹介

介しよ。この持ち送りは、八幡

浜市浜之町にあつ



持ち送りとレトロ照明

た米屋が解体される際もらつたもの。誤解をされては困るが、特に私がコレクターという訳ではない。例えばこうした檜材の歴史ある部材が、顧みられることなく破壊されることを惜しむだけなのだ。その時も順次解体の進む現場で、通りに面して5、6枚の持ち送りが並んでおり、ユンボで壊すのだという。ならば頂けまいかと交渉すると、居合わせた人の心理として欲しくなるのが人情、結局私の手元には1枚のみ残った。(さつきまで壊そうとしたのに、とは言うまい)ともかく、あつけらかんとモノは壊され更地にされてゆく。

このレトロで粋な照明具も、三瓶町にあった和田酒造という旧家の玄関にブラ下がついていた。やはり解体作業中で建物が揺れていたが、重機のオペレーターに5分だけ待ってもらつて救出。今回あらためて電気を灯した。

また、当地は寒い土地柄なので、階下と

屋根裏を仕切る蓋を設けているが、その把手は日土小学校の旧講堂2階にあつた手摺り子。私の趣向を知る知人から頂いたもの。他にも色々あるがこの位で。

命名は「案山子庵」。この地区名が山田、もう若い人は知らないだろうと思われるが、文部省唱歌に「案山子」というのがあり、

その中に山田の案山子というフレーズが出てくる。独り立ちして孤高の中でどこ吹く風と仕事をしている案山子には、どこか滑稽みがあり魅力が感じられるのだ。この隠れ家空間で時に醸す、気の置けない友人知人たちとの語らいが、日常の得難い彩りとなつている。有難し。



無双窓から外を眺める



案山子庵の看板(菊池十四一氏製作)